

応募書兼企画提案書
令和7年度「地域×大学」地域連携プロジェクト実施業務(大学グループ)

宮崎県知事 河野俊嗣 殿

標記事業に係る委託の公募について、下記の関係書類を添えて応募します。

【添付書類(全て添付し○をつけること。)

	見積書
	誓約書
	大学概要

応募する企画提案競技(応募するものに○を付けること。1、2は複数選択可。)

	1 県内大学×地域エリア①
	2 県内大学×地域エリア②
	3 県外大学

基本情報

1	大学グループ名		
2	学生代表者	氏名	
		ふりがな	
		郵便番号	
		住所	
		電話番号	
		メール(PC)	
		メール(携帯)	
3	構成員		別紙「構成員一覧」に記載
4	指導大学教員(責任者)	氏名	
		ふりがな	
		大学名	
		学部・学科名	
		職名	
		郵便番号	
		住所	
		電話番号	
		メール	

企画提案内容

番 号	項 目	企 画 提 案 内 容		記入にあたっての留意事項
1	研究・活動分野(得意分野)			
2	研究・活動分野(得意分野)から考える地域課題			
3	プロジェクトで取り組みたい分野(該当するものに○・複数回答可)		高齢者の買い物等の移動手段の確保	
			地域資源(特産物、観光資源、地域特有の歴史、自然等)の利活用	
			地域の特産物、農産物を活用した商品開発	
			廃校、空き家の利活用	
			地域の伝統文化の継承	
			その他()	
4	応募理由			
5	プロジェクトを通しての具体的な目標、期待される効果			

6	現時点での3年間(令和7年度～令和9年度)の計画			
7	令和7年度のスケジュール ※ 現地活動は、原則1泊2日×3回以上の日程で実施すること。	8月		
		9月		
		10月		
		11月		
		12月		
		1月		
		2月		
		3月		※ 活動報告会は2月下旬～3月上旬に開催予定
8	取組を実施するにあたっての工夫(活動内容やSNS等での情報発信方法等)			
9	現時点でのプロジェクト終了後の展望			
10	希望活動地域	希望地域①		
		地域と調整済みの場合は「○」		あらかじめ地域と調整済み(地域の合意が取れていること)が好ましいです。
10	希望活動地域	希望地域②		
		地域と調整済みの場合は「○」		希望地域②は、あれば記載してください(必ずしも2地区を記載する必要はありません)。
11	10 の地域を選んだ理由			
12	これまでの実績			すでに希望地域と連携して取組を実施している場合や過去の他地区での類似実績がある場合は記入してください。
13	実施体制(フィールドワーク等の実施にあたり、実施体制が整っているか。)			指導教員のサポート体制、現地までの交通手段、傷害保険等について詳しく記入してください。
14	人員体制(必要な人員体制を構築しているか。)			委託業務を遂行できる人員体制が整っていることについて記入してください。
15	持続可能な体制(3年間グループとして継続できる体制を構築しているか。)			企画提案競技実施要領 5(9)にご留意ください。
16	令和7年度のプロジェクト経費	別添見積書のとおり。		見積書(任意様式)を添付してください。

17	委託料の会計管理体制		県からの委託料を適切に執行する体制(会計担当者の設置、複数人でのチェック体制、適切な承認体制等)について詳しく記入してください。
18	その他特筆すべき内容		その他、事業を通して工夫するポイントや特筆すべき内容があれば記入してください。

構成員一覧

複数の大学でグループを構成することも可能。
構成員が15名を超える場合は、行を追加すること。

構成員	番号	大学・学部・学科名	学年	氏名	氏名ふりがな	メールアドレス	学生代表者に○
	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						

応募書兼企画提案書(記載例)
令和7年度「地域×大学」地域連携プロジェクト実施業務(大学グループ)

宮崎県知事 河野俊嗣 殿

標記事業に係る委託の公募について、下記の関係書類を添えて応募します。

【添付書類(全て添付し○をつけること。)

	見積書
	誓約書
	大学概要

応募する企画提案競技(応募するものに○を付けること。1、2は複数選択可。)

	1 県内大学×地域エリア①
	2 県内大学×地域エリア②
	3 県外大学

基本情報

1	大学グループ名		
2	学生代表者	氏名	
		ふりがな	
		郵便番号	
		住所	
		電話番号	
		メール(PC)	
		メール(携帯)	
3	構成員		別紙「構成員一覧」に記載
4	指導大学教員(責任者)	氏名	
		ふりがな	
		大学名	
		学部・学科名	
		職名	
		郵便番号	
		住所	
		電話番号	
		メール	

企画提案内容

番 号	項 目	企 画 提 案 内 容		記入にあたっての留意事項
1	研究・活動分野(得意分野)	本大学グループは、〇〇大学△△学部□□学科●●研究室の学生で構成されるグループで、構成メンバーは、地域資源の活用に関する研究を専門としており、特に地域特産物の開発や観光資源の活用、歴史的資源の保存と活用に力を入れている。実際に●●研究室では、地域経済の活性化や持続可能な地域づくりに向けて、実際に地域に足を運び、実践的な取り組みを行っている。		
2	研究・活動分野(得意分野)から考える地域課題	研究室での活動で実際に地域に足を運んでみると、地域特産物の認知度の低さや、地域の歴史や自然環境が十分に活用されていない地域課題が見えたため、地域資源を最大限に活かした地域振興が求められている。		
3	プロジェクトで取り組みたい分野(該当するものに○・複数回答可)		高齢者の買い物等の移動手段の確保	
			地域資源(特産物、観光資源、地域特有の歴史、自然等)の利活用	
			地域の特産物、農産物を活用した商品開発	
			廃校、空き家の利活用	
			地域の伝統文化の継承	
			その他()	
4	応募理由	本大学グループは、地域資源の活用に関する研究を専門として実践的な活動を行っている。研究分野の専門的知識、大学生ならではの若者の視点やSNS発信等のノウハウを活かしながら地域住民、民間事業者、役場等の関係者と共に課題解決に取り組むことで、地域資源を活用した持続可能な地域づくりに貢献したいと考えたため、今回の企画提案競技に応募した。		
5	プロジェクトを通しての具体的な目標、期待される効果	本プロジェクトを通して、地域特産物の商品化や観光資源の魅力向上を目指す。具体的には、特産物の加工品開発や観光イベントの開催を通じて、地域経済の活性化と地域住民の意識向上や関係人口の創出を図る。		

6	現時点での3年間(令和7年度～令和9年度)の計画	【令和7年度】 地域資源の実態調査・分析、令和9年度末までの活動計画書の作成 【令和8年度】 住民とのワークショップ開催、特産物の商品化に向けた企画案の策定 【令和9年度】 実証イベントの実施、フィードバック、次年度以降の継続的な取り組み計画策定		
7	令和7年度のスケジュール ※ 現地活動は、原則1泊2日×3回以上の日程で実施すること。	8月	顔合わせ	
		9月	フィールドワーク①(地域資源の実態調査)	
		10月	地域資源実態調査の分析	
		11月	フィールドワーク②(地域資源実態調査の分析結果の共有)	
		12月		
		1月	フィールドワーク③(令和9年度末までの活動計画書の作成、住民ワークショップ開催に向けた準備、活動報告会に向けた準備)	
		2月	活動報告会に向けた準備	
		3月	活動報告会発表、事業実施報告書の作成	※ 活動報告会は2月下旬～3月上旬に開催予定
8	取組を実施するにあたっての工夫(活動内容やSNS等での情報発信方法等)	〇〇等のSNSを活用した情報発信を行い、地域住民や外部からの参加者を募る。また、フィールドワークの様子やイベント情報を定期的に発信し、地域への関心を高める工夫をする。		
9	現時点でのプロジェクト終了後の展望	令和9年度に特産物の商品化に向けた実証イベントの実施を計画しているため、プロジェクト終了後も、実証イベントを踏まえ、実装(商品化等)に向けた取組を継続していきたい。		
10	希望活動地域	希望地域①	〇〇市町村△△地区	
		地域と調整済みの場合は「○」	○	あらかじめ地域と調整済み(地域の合意が取れていること)が好ましいです。
10	希望活動地域	希望地域②		希望地域②は、あれば記載してください(必ずしも2地区を記載する必要はありません)。
		地域と調整済みの場合は「○」		
11	10の地域を選んだ理由	△△地区は、人口減少(人口●人)、高齢化(高齢化率●%)、が著しい地区であるが、豊かな自然環境と独自の文化・歴史があり、特産物も多く存在する。特に〇〇は△△地区有数の特産物であり、これらの資源を活かすことで、地域振興が期待できると考えたため。		
12	これまでの実績	本グループが所属する●●研究室は、既に△△地区と連携し、…(具体的な取組等)を実施しており、連携体制が整っている状況である。 本グループが所属する●●研究室は、□□市町村××地区と連携し、××地区の特産物を活用した商品を開発した。具体的には…(商品の詳細、実績等)		すでに希望地域と連携して取組を実施している場合や過去の他地区での類似実績がある場合は記入してください。
13	実施体制(フィールドワーク等の実施にあたり、実施体制が整っているか。)	指導教員は、本グループが所属する●●研究室の〇〇教授に依頼し、打合せ等は指導教員を交えて進めることとする。またフィールドワークには指導教員も同行する。 現地までの交通手段として…(公共交通機関・借り上げバス・大学のバス・自家用車・レンタカー等)の利用を想定している。 フィールドワーク中の事故や怪我に備え、全ての参加者は傷害保険に加入する。 万が一、他者に損害を与えた場合に備え、賠償責任保険にも加入する。		指導教員のサポート体制、現地までの交通手段、傷害保険等について詳しく記入してください。
14	人員体制(必要な人員体制を構築しているか。)	リーダー: 〇〇 〇〇 ・(役割1) ・(役割2)... 〇〇 〇〇 ・(役割1) ・(役割2)... 〇〇 〇〇 ・(役割1) ・(役割2)...		委託業務を遂行できる人員体制が整っていることについて記入してください。
15	持続可能な体制(3年間グループとして継続できる体制を構築しているか。)	本グループ内で毎年リーダーを選定し、リーダーを中心とした組織体制を構築し、地域住民や民間事業者と連携して活動する。 次年度以降、指導教員の助言の元、●●研究室に所属する下学年の学生から、新たな構成員を選定しメンバーを追加することで、持続可能な体制を維持する。 3年以内に大学卒業見込みの構成員もいるが、卒業後も引き続き構成員としてプロジェクトに参画する予定である。		企画提案競技実施要領 5(9)にご留意ください。
16	令和7年度のプロジェクト経費	別添見積書のとおり。		見積書(任意様式)を添付してください。

17	委託料の会計管理体制	委託料管理専用の口座を開設し、委託料の使途の透明性を確保する。 グループ内に会計担当者を設置し、予算管理や経費精算業務を担当させる。 予算執行にあたっては、事前にグループ内及び民間事業者と協議し合意形成を図る。 予算執行や経費精算に関しては、複数人によるチェック体制を導入する。具体的には、会計担当者が初回チェックを行った後、リーダー及び民間事業者による二次チェックを実施することで、不正や誤りを未然に防ぐ。	県からの委託料を適切に執行する体制(会計担当者の設置、複数人でのチェック体制、適切な承認体制等)について詳しく記入してください。
18	その他特筆すべき内容		その他、事業を通して工夫するポイントや特筆すべき内容があれば記入してください。